

(以下は Cullgen Inc. による英文プレスリリースの日本語訳です)

Cullgen は科学諮問委員会の拡大を発表

uSMITE™技術（ユビキチン化を介した低分子誘導標的分解技術）を活用した新規医薬品開発に焦点を当てた企業である Cullgen Inc. (Cullgen) は、Timothy Heffernan 博士及び Michele Pagano 博士が、同社の科学諮問委員会に加わったことを発表いたしました。同社の現在の科学諮問委員会には、Stephen Frye 博士、Lisa Carey 博士、及び Peter Jackson 博士が含まれます。

Timothy Heffernan 博士は、現在、MD Anderson Cancer Center（MD アンダーソンがんセンター）内に統合された創薬開発部門である the Institute for Applied Cancer Science（応用がん科学研究所（IACS））のエグゼクティブ・ディレクター兼腫瘍学研究の総責任者です。また、革新的な臨床試験に役立つ新薬の前臨床評価の加速化に焦点を当てたトランスレーショナル（注）・バイオロジー・プラットフォームを用いた共同臨床試験のセンターにおけるディレクターも務めています。Heffernan 博士は、ノースカロライナ大学チャペルヒル校において細胞分子病理学の学位を取得後、the Dana Farber Cancer Institute（ダナ・ファーバーがん研究所）及びハーバード大学医学大学院においてポストドクターを務めました。Heffernan 博士の専門分野は、がん領域の基礎及びトランスレーショナル（注）研究、がんゲノム研究並びに標的がん治療です。現在は、治験許可（IND）申請に必要な試験及び第1相臨床試験を通じた標的同一の研究を行いつつ、先進低分子医薬品の創薬ポートフォリオの開発を行っています。MD アンダーソンに勤務する以前は、the Dana Farber Cancer Institute の the Belfer Institute（ベルファー研究所）において、標的同一研究を主導するとともに、C4 Therapeutics Inc. においてシニア・ヴァイス・プレジデントを務め、社内及び提携先とのプログラムのポートフォリオを進展させるために、創薬及びトランスレーショナル（注）バイオロジーの取り組みを行っていました。

Michele Pagano 博士は、ニューヨーク大学医学部の生化学・分子薬理学部の学部長であり、May Ellen and Gerald Jay Ritter 財団のがん領域の教授でもあります。また、ハワード・ヒューズ医学研究所において、がん領域の治験責任医師も務めております。Pagano 博士は、出身地であるイタリア・ナポリの the Federico II University（フェデリコ2世大学）にて医学博士号及び分子薬理学の専門学位を1990年に取得後、ドイツのハイデルベルクにおける European Molecular Biology Laboratory（欧州分子生物学研究所（EMBL））にてポストドクター（1990～1992）を務め、その後 Mitotix Inc. を共同設立し（1992～1996）、1996年からニューヨーク大学医学部における勤務を開始しました。また、がん生物学における多大な功績が認められ、the National Cancer Institute（アメリカ国立がん研究所）から MERIT Award を受賞する等、Pagano 博士は著名な賞や補助金を数多く受領しています。Pagano 博士の研究は、細胞増殖を制御するキナーゼ及びユビキチン化酵素、並びにこれらの機構による deregulation（遺伝子の発現異常）が、がん化にどのように寄与するかに焦点を当てています。

Cullgen の CEO であるイン・ルオ博士は、「この度、Timothy Heffernan 博士及び Michele Pagano 博士を Cullgen の科学諮問委員会に迎えたことを大変喜ばしく思っております。また、科学諮問委員会が、当社の将来の成功に重要な役割を果たすことを期待しており、彼らのユビキチン化を介した標的蛋白質分解誘導技術やがん研究における確立された専門知識が、社内の研究開発チームにとって非常に有用であると考えます。」と述べております。

（注）先端医科学研究分野における基礎研究の成果を、革新的な診断や治療薬、治療法の開発等、実際の医療に活用するための『橋渡し研究』のこと

※プレスリリースの原文は Cullgen Inc. のホームページにおいてもご覧いただけます。（英語）